

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月11日

事業所名

ハピネス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		勉強部屋や相談室など、個室も完備しています。	日々相談しながらより良い空間になるよう改善しています。
	2	職員の配置数は適切である	5	1	配置基準を満たした適切な運営ができています。	児童指導員の他に、保育士や作業療法士などの専門職も配置しているので、今後も手厚い職員配置をしていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		事業所内には手すりがついており、大きな段差などもない。	今のところ改善点は無いと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		業務終了時に毎日の清掃を行なっている。	スタッフ自身が使ったものを元に戻せてない事があるため、大人も使ったら片付ける習慣を身につけたいと思います。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル/目標設定と振り返りに、広く職員が参画している	5	1	日々のミーティングだけでなく、昼食時などにもコミュニケーションを取り合えるよう心がけている。	コロナ休校期間や長期休暇の際に朝から児童がいる際にスタッフ間での共有、会議がなかなかできていない事から、児童の受け入れ前にミーティングの時間を設けたいと思います。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者さまの貴重な意見を素直に受け止め、より安心して預けていただけるように工夫していく。	指摘いただいた部分はしっかりと受け入れ、スタッフミーティングにて改善をしていく。引き続きより良い事業所作りに励んでいきたいです。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		アンケート結果をもとに、スタッフ間で共有し今後に活かす。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	提携会社、協力会社による定期的な評価がある。	引き続き行なっていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		社内研修や出張研修を定期的に行なっている。	コロナの影響はあるが、実施できている方だと思います。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		同法人に配置されている書類管理スタッフが定期的に研修参加し、スタッフの意向を踏まえて書類の見直し、利用者主体の計画、書類になるよう努めています。	計画相談員、保護者様、利用者様の声が反映されています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			基本的なアセスメントシートを基準として、独自のシートを活用して服薬状況などを把握しています。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		それぞれのスタッフの意見を取り入れることで、具体的な内容になるよう努めている。	家庭環境や発育状況、一人ひとりの状態観察等からさまざまな支援ができています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		日々の支援記録の中に、支援計画の内容を取り入れている。	支援計画を軸として日々の支援ができるように支援記録にも取り入れているので、記録の際に「計画をもとに支援できているか」を確認できています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	定期的なミーティングを設けて、スタッフそれぞれが発案できる環境がある。	今後、より良いプログラムを作成するために会議時間をもっと設けて、細かく詰めていく必要があるかと思うので、改善していきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	定期的なミーティングを設けて、スタッフそれぞれが発案できる環境がある。	会議時間をもっと設けて、細かく詰めていく必要があると思います。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		作業療法士が個別の対応をして、児童指導員で集団の対応をしています。	臨機応変に対応できているとおもいます
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	シフトで休みのスタッフにはMTGノートを活用して共有している。	内容はきめる事ができているが、役割までは決めていなかったりと、まだまだ改善の余地があると思います。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		その日のできるようにしているが、出来なかった場合は翌日の朝に行なっている。	“必ず” はできていませんが、気になった児童について話し合いはできています
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日々の記録と改善、検証を行えている。	その日のうちに記録する事ができています。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		モニタリング実月を表にまとめ事務室に掲示し、月始めに共有している。	計画的、継続的に行えています。
	関係機関や保	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		管理者・サピ管だけでなく、同一法人の相談員に必要に応じて協力要請し一緒に参加して助言いただく等している。
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		6			必要だと判断した場面では迅速かつ適切に対応していく。
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			6	現在、医療的ケアが必要な児童がいません。	今後、医療的ケアが必要な児童を受け入れることも考えられるので、その際にはしっかりと適切な連携、対応をしていく。
24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			6		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
養育との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		必要がある際には、情報の提供と共有を行っている。	会議などの場を適切に設けています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		送迎時などに情報の交換を行っている。	会議などの場を適切に設けています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		定期的な研修を受けている。	今後は回数を増やしていく予定です。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6	なるべく交流があるようにしているが、感染症拡大防止の観点から自粛している。	コロナウイルス感染拡大防止の観点から、交流がむずかしい状況があります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6		コロナウイルス感染拡大防止の観点から、交流がむずかしい状況があります。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時や連絡帳、メール、電話、ラインなどを活用して伝達しています。	今後も、保護者と密な連携を図っていきたいです。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	1	家族支援、発達支援、地域支援の観点から個別支援計画を作成している。	連絡帳などを保護者が気軽に確認できるよう、アプリの導入を検討中です。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		しっかりと説明して同意を得ている。	契約の際に説明して同意を得ている。また、契約後も要望があれば再度説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		事業所にガイドラインを常し、MTGの際に定期的に確認している。	基本的な運営を忘れないよう、定期的な読み込みをスタッフ全体で行い、意識して作成できるよう心がけていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者を含めたイベントを開催している。(BBQやサロン等)	コロナウイルス感染拡大防止の中でも開催する事ができました。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6	交流の機会を企画したが、感染症拡大に伴い中止となった。	コロナウイルス感染拡大防止の観点から、交流がむずかしい状況があります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		連絡帳やメール、LINE等相談できる窓口を幅広く持ち、相談があった際には対応できている。	会議の場を設けたり、必要な情報を書面で通達するなど適切に対応しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		毎月、事業所便りを発行している。	今後はLINEやメールももっと活用して、より細かな情報を発信していきたいです。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		定期的に会議の中で周知している。	スタッフに関しては、入社時、退社時に誓約書があります。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		連絡帳やメール、LINEを活用してわかりやすく説明している	今後も空間整備の強化を常に心がけ、安心して来所いただけるように努めていきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6	感染症拡大防止の観点から、開催できなかったが計画はしている	コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、交流がむずかしい状況があります。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	各種マニュアルを研修時に確認すると共に年に2回消防署の協力のもと避難訓練を実施している。	保護者の皆様と共有がいつでもできるわけではない為、避難訓練実施時は避難方法・経路図・連絡方法等を書面・プロゲ等を通してお知らせしていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		定期的に避難訓練を実施している。また、避難場所等を子ども達と確認し、日々の遊びの中でも確認するようにしている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		事前の個別支援会議で確認し、対応方法等を個別のファイルを作り、職員周知をしている。また、マニュアルを作成して共有している。	フェイスシートより深い情報を取り入れるために新たにシートを配布して情報収集したいと思えます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		事前に保護者から情報をもらい、おやつ提供時にはしっかりと配慮している。	アレルギーのみでなく、病院受診後は診断書等の情報をもらい、児童の健康管理に努めています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		事業所内での出来事だけでなく、送迎時の運転に関しても共有している。	事例が起きた際は職員間で再度、注意喚起と防止法について話し合っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		コロナ禍でも、研修を開催、実施する事ができた。	外部講師等を活用しながら、定期的実施しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		契約書・重要事項説明書に記載し、また本人の特性を事前に個別支援会議で確認し、両親の対応等を確認している。	引き続き、利用開始時に個別支援会議を実施し、児童の特性を理解する事を心がけていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。